

『もりおかの短歌』

夏の部 優秀賞十首

ひとすじに啄木たくぼくしん信じそ添いとげし

妻つまのけなげさ

胸むねにしみ入るい

長崎県大村市 一瀬 敦子

台風たいふうが外れてそ青空あおぞら広がりぬ

姫神山ひめかみさんが

さわやかに見ゆみ

盛岡市 中島 久光

野老どころ売り寄せ豆腐とうふ売りの

声聞こえきいた盛岡もりおかの町まち

青年せいねんのころ

盛岡市 小林 貴史

こずかた　しろあと　たくぼく
不來方の城址めぐり啄木の
かひ　さが
歌碑を探せり

つつじ咲くなか

京都府長岡京市　吉田　正美

ふるさと　よ　つづ　たくぼく
故里を詠み続けたる啄木の
こころ　であ
心に出会う

もりおかの旅　たび

青森県三戸郡五戸町　手倉森　眞喜子

たくぼく　う　てら　はちじょうま
啄木の生まれし寺の八畳間
すわ　なつ
座れば夏の
くさ　かとお
草の香通る

盛岡市　岩館　公子

ふるさとの
いしわり　きみ　み
石割さくら君に見せ
まちなか　てら　のうこつ　い
町中の寺へ納骨に行く

福岡県福岡市　六月朔日　光

啄木たくぼくの生まれし土地とちに吹く風ふの
すがすがしさよかせ

鳥高く舞うとりたかま

群馬県伊勢崎市 北村 理恵子

やすらかな妻つまの寢息ねいきに書しょを閉ぢてと

おとがひうづ
頤埋む

もりおかの夜よる

愛媛県新居浜市 菅 伸明

啄木たくぼくの

歌を諳うたじひとりゆくそらん

北上川きたかみの流れがはに添ながひてそ

千葉県市川市 長田 強子

〔講評〕岩手や盛岡の自然や風物、また石川啄木や宮沢賢治に対する作者の
想いが素直に表現されていて、情感が読み手にストレートに伝わってくる
歌が多かった。

平成二十八年九月選 夏の部

投稿数 二百三十 首

選者 山本豊